

『大学入学共通テスト 国語[現代文]の点数が面白いほどとれる本』 正誤表

このたびは、弊社刊『大学入学共通テスト 国語[現代文]の点数が面白いほどとれる本』の記述につき訂正箇所がございます。
お詫びとともに訂正させていただきます。

最終更新日:2020年6月30日

ページ		誤	正
p.136	問5の正答および ①の解説内容	①× 「——」で挟まれている部分は、それぞれ直前の語句の言い換えになっていますので、「注釈」とも言えますし、繰り返すことである種の「強調」が行われているとも言えるでしょう。説明として「 <u>適当だ</u> 」と言えます。	①○ 第1段落の「——」で挟まれている部分は、直前の語句の言い換えになっており、第3段落の方は直前の語句の具体例になっています。前者は繰り返しによる「強調」と言えなくもないかもしれませんが、具体例を挙げることは「強調」とは言えないでしょう。よってこれが「 <u>適当でない</u> 」という意味で正解です。
p.137	問5の正答および ⑤の解説内容	⑤○ 他の三つはたしかにそうですが、×をつけたところは、「何が『利用』で何が『使用』か。その判断基準は <u>明らかでない</u> 」という文脈の中で使われており、「 <u>著作権の及ばない領域を明らかに</u> 」していません。よってこれが「 <u>適当でない</u> 」という意味で正解です。	⑤× 第16段落第四文の「何が『利用』で何が『使用』か。その判断基準は明らかでない」というのも、「使用」ならば「著作権法ははたらかない」ので、厳密には「著作権法の及ばない領域を明らかに」するのは難しい」という趣旨ですが、選択肢の「現実的な運用の複雑さを示唆している」というところに合致すると言えるでしょう。ほかの三つが「著作権法の及ばない領域を明らかに」しているのは問題ないでしょう。

以上